

国立天文台・天文情報センター・アーカイブ室 中桐正夫

* いろいろあったカラーカーボン紙を収蔵

今の人たちには想像もつかないかもしれないが、コピー機というものが無かった時代には控えをとるために3枚重ねた紙のそれぞれの間にカーボン紙というものを挟んで鉛筆で強く書いたものである。まだボールペンというものもあまり普及していなかった時代だったように思う。1枚目は鉛筆だから正本にはしない、2枚目のカーボンコピーが正本で3枚目のカーボンコピーを控えにしたと記憶している。ボールペンが普及してからは、2枚の紙の間にカーボン紙を入れ、ボールペンで書き、ボールペンの方が正本、2枚目のカーボンコピーが控えになった。

今は、メールで連絡する時、CCとして自分に控えを、また同じものを複数の人に送るときCCとして送る。このCCはCarbon Copyの略で、カーボン紙で控えを取っていた時代の名残である。このカーボン紙は普通には黒か青であったが、他の色のものもあった。この3月末で定年を迎える宮内良子氏が周辺を整理していてこれらの色とりどりの色カーボン紙(写真1)が出てきたのでアーカイブスの仲間に入れておいてはどうかと譲ってくれたものである。カーボンというからには、普通には黒色である。



写真1 いろいろな色のカーボン紙

写真1のカーボン紙は、左から緑、黒、青、赤、紫、セクションペーパーになった黒色のものである。宮内氏のところに残っていたものはこれだけの色のものではあったが、もっ

とたくさんの色のものがあつたことが想像される。それらが入っていた箱が写真2、3である。



写真2 カーボン紙の入っていた箱



写真3 カーボン紙が入っていた箱-2

黒以外のカーボン紙を使った場合には、一番上のものは鉛筆書きであるからオリジナルにすることはできなかつたのであろうことがわかる。

年度末で退職する人がこのような歴史的なものを残してくださる例でした。読者の皆さんもアーカイブスの仲間に入れておくようなものをお持ちの場合にはぜひ声をかけていただければと思います。